教員著書あ・ら・か・る・と

著者からのコメント

内田魯庵山脈

山口昌男著（晶文社　2001.1）

『内田魯庵山脈』は、『「挫折」の昭和史』『「敗者」の精神史』（共に岩波書店）とは出版社を異にするものの、一般の読者には上記二冊に続く<失われた日本人発掘の第三部作>として位置づけられているようだ。

だが、実はこの『内田魯庵山脈』は、晶文社が付けてくれた帯文句である「蒐集の精神史」というコピーから、『週刊ダイヤモンド』に隔週で連載している「経営者の精神史」につながっていて、私が個人雑誌として発行している『山口昌男山脈』につながる現在の私の仕事の核となった作品である事を知る人は多くはない。私は『内田魯庵山脈』において、魯庵を軸に芋蔓式に驚くべき知の水脈を発掘したが、「山口昌男」の水脈が何処まで広がるかは私自身も計り知れない。　(910.268-U14)

詩集 受苦の木

原子修著（書肆　青樹社　2002.11）

この本を読んでいただいた全国の方々から、ほぼ同じ様な感想をいただいた。「主題を失った現代詩に書く気力を無くしていたわたしに、この一冊は、瞠目に値するものでした。…（中略）…この詩集は2002年の大きな収穫でした」（硲杏子・茨城県）。「原子独特の力強い表現力のパワーと文明批評のこもった転象の手法は注目すべき詩法である」（三沢浩二・岡山県）。「生涯でこれぞというものは1～2冊と思いますが、貴著はこれだと思います」（黒羽英二・神奈川県）。「近来稀な充実感のある詩集でした」（山内龍・奈良県）等々。全国からの評言に応えて、益々精進せねばなるまい。　(911.56-H32)

インターネットをつくる［柔らかな技術の社会史］

ジャネット・アバテ著　大森義行・吉田春代訳
（北海道大学図書刊行会　2002.7）

本書は、Abbate Janet著『Inventing the Internet』(MIT Press,1999)の翻訳です。インターネット黎明期ともいえる1960年代初めから、商業利用が始まる1990年代前半までにおよぶインターネットの発展を、さまざまな資料や関係者の証言に基づき、「ものがたり」ではなく「歴史」として記述した研究書と言えます。インターネットが与えた社会的インパクトを平易に解説しており、インターネットの歴史のみならずインターネットそのものに興味のある方にもぜひ読んでもらいたいと思います。

〈大森〉(547.8-A11)

STOCK & COLLECTION

『読売新聞CD-ROM』（読売新聞社）

新聞記事はインターネットで入手する。現在ではごく当り前の、どこにでも見受けられる風景ですが、では、過去の新聞記事はどうやって入手しますか?

ネット上で入手できるのは比較的最近の記事に限られます。過去の、それもすっかり遠くなってしまった明治・大正の新聞記事となると、途方にくれてしまいます。原紙で保存するスペースはありません。マイクロ形態なら省スペースですが、しかしマイクロリーダプリンタがゼッタイに必要。面倒な操作も覚えなくてはなりません。そこでCD-ROM版の登場です。「読売新聞CD-ROM」は次のような構成になっています。

	収　録　範　囲
明治の読売新聞	明治 7(1874)年11月 2日 ～明治45(1912)年 7月30日
大正の読売新聞	明治45(1912)年 7月30日 ～昭和 元(1926)年12月30日
昭和の読売新聞　戦前1	大正15(1926)年12月 1日 ～昭和11(1936)年12月31日
昭和の読売新聞　戦前2	昭和12(1937)年 1月 1日 ～昭和20(1945)年12月31日

それぞれ原紙イメージを収めた本体と検索ソフトからなり、現代の言葉で記事検索が可能、大正以降は広告検索も可能です。図書館3階情報検索コーナーでご利用ください。（森俊司）